

梅鶯仏教壮年会報

第139号
2017年
1月21日

1月例会

期日：1月29日（日）

時刻5時～6時半

プログラム

お勤め

法話

『浄土真宗のみ教え』

《限りなき光と寿の仏》

放談会（自由に話しましょう）

仏教讃歌斉唱

仏壮研修旅行を振り返って

北村新一郎

平成28年度、梅鶯仏壮の研修旅行が、森勝昭会長、田中薫様のお世話により行われました。

参加者12名は9月24日・25日一泊二日の日程で、初秋の京都・奈良への旅を満喫しました。

まずは、西本願寺への参拝です。

その後、龍谷ミュージアムで当日から開催の第25代専如門主伝灯奉告法要記念特別展『浄土真宗と本願寺の名宝―受け継がれ

る美とところ』を鑑賞しました。木田知生館長直々にお出迎えを頂き、石川知彦副館長からは丁寧で分かりやすいレクチュアを頂きました。その後、龍谷大学響都ホールにて、全盲の弁護士竹下美樹氏、宗教評論家ひろさちや氏による「心の講座」を受講致しました。「ひろ氏は一阿呆のすずめ」という演題で話され、その軽快なリズムでの話の最後は「ソノママが良いんです」との結論でしたが、雑念の多い私には「ソノママ」では正直生きられそうにありません。研修会を終えて夕食会は、薬師寺の村上大胤管長様やひろ氏を交えて、おいしい料理を頂き、酒を酌み交わしながら和気あいあいと和やかな宴会となりました。翌25日は全員爽やかな朝を迎え、薬師寺に到着すると、村上管長様自らが前庭にてお出迎え下さり、管長の奥様からは手厚いもてなしを頂きました。その後のお話しの中で、故高田好胤元館長様が推し進められた写経教室が全国的に広い年齢層に指示され、ボランティア活動としても続いているとのことでした。また、玄奘三蔵院内のシルクロード求法の旅を描いた大唐西域壁画（平山郁夫画伯30年の大作）

にはとても感動致し、魅せられました。さらに、西塔内部に造られたお釈迦様の生涯を描かれた四面塑像の臨場感、迫力には息をのむばかりでした。涅槃の場面に猫がいない理由も始めて知りました。薬師三尊像には思わず合掌致しました。再建に努められた故高田好胤元館長様の他、昭和の宮大工で大棟梁の西岡常一様も忘れられない方だとお聞き致しました。様は、私自身小学生の頃に観た時よりも存在の偉大さを感じました。その大仏様は、聖武天皇の頃「徳治思想」として建立され、正式名は盧舎那仏と呼び、「光の仏」として日輪、大日如来と同じ意味だそうです。参拝を終え門を出る時、振り返れば再び大仏殿の大きさに圧倒され感無量の思いでした。最後に成りました、本研修旅行でお世話になりました皆様方には、丁寧なおもてなしと感謝を頂きました。紙面をおかりして心より感謝と御礼を申し上げます。本当に有り難うございました。合掌

題材法話

宇宙学者のホーキング博士という方をご存じかと思

います。宇宙のブラックホールを発見した天才宇宙学者と言

われる方で、病気が発生時代

に、筋萎縮性の物理学者が、

「車椅子の物理学者」として

進行性の筋萎縮が、何故か

進行が止まり、現在でも活

躍されて、キング博士が40

年のホーキング博士が訪れて

演をなされたことがありま

す。その講演の後で参加者と

その質問のやり取りがあり、

その内容は大変興味深いも

の地球の消滅

○地球の消滅

地球のようないかなる宇宙に



「三百万くらいはある」と

答えられたのです。地球と同じ様に生き物の

いる星が三百万はある」と

仰るのです。多々文明を持つ星があるのに

多く文明が何故に宇宙船なり、

宇宙人が実際にこの地球に

到来してこないのか？」と

質問されました。博士はまた即

座に、「地球は文明が自然

に進むと、そういう星は宇宙

の循環が狂って、瞬間的に自

滅するから生命は消滅して

しまふからなのです」と答

えられました。文明が進みすぎ

るとその生命体は自滅する

と仰るのです。宇宙時間

で瞬間的というものは、この

地球の時間と言うと、何年



滅しかかったら、百年も持

たない」ということなので

す。このやりとりは結構シ

ツキングですが、40年後

の現在の地球の状況を考え

ますと、ますます不気味に

感じます。科学文明により

化が進み、今年も本地球温

常気象が続きました。異

単に核という地球の文明を簡

質が、滅ぼすこと、地球に

濫してきています。地球に

何か今、地球がその百年

の歩みをして、地球がその

いかという気がします。は

私達の子や孫やその子孫

の、ことを考えますと、こ

な事で良いのだらうかと、



命はあと何年くらいかとい

うことです。太陽の水素は「今から約

六十億年弱で燃え尽きる」と

というのが、現在の科学者

によつて計算された数字な

のだそうです。太陽が無くなれば、当然

地球も無くなるといふこと

で、科学者がはじ出した

地球の寿命は、「60億年

弱」といふことなのだそう

です。ところで皆さん、親鸞聖

人の御和讃に、「このような

御和讃があるのはご存じで

しょうか。五十六億七千万

彌勒菩薩はましをへん

まことの信心

このたびさとりを

出でくるのですが、「五十

六億七千万」といふ数字、

妙に「60億年弱」と一致

するのですが・・・。

以下次号

2016年除夜会住職法話より